釜石市立唐丹小学校　校報

かもめ

校報「かもめ」
第　１８　号
令和2年12月11日発行
釜石市立唐丹小学校

地域について考える子どもたち

地域の「ひと・もの・こと」から学ぶ

【「鮭汁」の材料を真剣な表情で切る子どもたち】

唐丹小の子どもたちは、自分たちが住んでいる唐丹や釜石の自然、歴史、伝統・文化、産業等を対象としながら、体験的な学習をしています。

この日は地域の特産品を使った郷土料理について理解を深めるため、５年生が「鮭汁」に挑戦しました。

唐丹町漁業協同組合女性部の木村近子さん、上村年恵さん、岩間梓さんからご指導をいただき大奮闘する子どもたち。家庭科室は、あっという間に美味しそうなにおいで一杯になりました。地域の「ひと・もの・こと」とかかわる様々な体験を通して、地域の重要な産業である漁業に対する理解を深めるとともに、郷土の自然や環境を保護していこうとする気持ちを高めたり、震災津波からの復興・発展を目指す方々の思いや願いに気付いたりしてくれることを願っています。

食に関する指導の推進

健全な食生活で
健康で豊かな人間性を

「食育指導」は、健康的な食生活の在り方や、望ましい食習慣を身に付けさせることをねらいとして学校教育活動全体で実施されているものです。

この日は、釜石市学校給食センターの栄養教諭平野沙紀先生が、１年生の子どもたちに指導をしてくださいました。

学習課題は「やさいパワーのひみつをしって、しっかり食べよう」です。子どもたちは「目のはたらきがよくなる」「かぜにまけない体をつくる」「うんちが出ておなかがすっきりする」等、野菜の３つのパワーを学びました。

【「食育」について指導する平野先生】